

東神楽町立東神楽中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名	東神楽町立東神楽中学校	(生徒数 377名)
連携小学校名	東神楽町立東聖小学校	(児童数 456名)
	東神楽町立東神楽小学校	(児童数 239名)
	東神楽町立忠栄小学校	(児童数 9名)
	東神楽町立志比内小学校	(児童数 8名)

本プランの特徴

- 小中合同で「中1ギャップ解消」に向けての研修や交流を実施しています。
- 「中1ギャップ解消」に向け、既存の組織を活用した推進体制を確立しています。
- 子ども理解支援ツール「ほっと」を活用し、小中合同で子どもの実態分析、交流を実施しています。

1 中学校区の特徴

本中学校区は、旭川近郊で、旭川空港の所在地である。新興住宅地と農業地帯が並立しており、規模の異なる小学校を4校有している。学校の教育に対する保護者や地域の関心は高く、児童生徒への期待感が高い。

2 中学校区の課題

本校の生徒は、明るく素直であり、おとなしい傾向にある。4校の小学校を卒業した生徒が通うため、人間関係の構築に不安を抱えていたり、通常の学級にも特別な支援を要する生徒が在籍したりするため、コミュニケーション能力を高め、社会性を身に付けさせることが課題である。

3 中学校区の目標（小・中学校の重点目標）

- 学校、教育委員会、関係機関が連携を図り、適切な取組を実施することにより、児童生徒のコミュニケーションに関わる能力の向上に努める。
- 子ども理解支援ツール「ほっと」（以下：「ほっと」と記述）の効果的な活用を図るため、教育相談等の資料として活用し、児童生徒理解に努める。

4 中1ギャップ検討委員会の構成

所 属	役 職	所 属	役 職
東神楽町立東神楽中学校	校長	東神楽町立忠栄小学校	校長
東神楽町立東神楽中学校	教頭	東神楽町立忠栄小学校	教頭
東神楽町立東神楽中学校	教諭（生徒指導）	東神楽町立忠栄小学校	教諭（生徒指導）
東神楽町立東神楽中学校	教諭（教務）	東神楽町立志比内小学校	校長
東神楽町立東神楽小学校	校長	東神楽町立志比内小学校	教頭
東神楽町立東神楽小学校	教頭	東神楽町立志比内小学校	教諭（生徒指導）
東神楽町立東神楽小学校	教諭（生徒指導）	東神楽町教育委員会	教育長
東神楽町立東聖小学校	校長	東神楽町教育委員会	教育課長
東神楽町立東聖小学校	教頭	東神楽町教育委員会	学校教育アドバイザー
東神楽町立東聖小学校	教諭（生徒指導）	東神楽町教育委員会	スクールカウンセラー

5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	東神楽中学校	東神楽小学校 東聖小学校 忠栄小学校 志比内小学校
3月～ 4月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各小学校との新1年生についての状況把握 ・新1年生の交友関係、生活状況等の把握 ・入学後の配慮事項の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校への引継ぎ ○ 特別な支援を必要とする児童の情報提供と上川版個別の支援計画「すくらむ」による引継ぎ
5月	第1回 東神楽町生徒指導連絡協議会 <ul style="list-style-type: none"> ○ ねらい、内容、重点等の確認 ○ 人間関係、生活習慣、学習規律の把握と交流 	
6月	中1ギャップ問題未然防止事業の事業内容の確認（各校代表者）	
7月	第1回 東神楽中学校区の中1ギャップ問題検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ○ 中1ギャップ問題の解消に向けた事業内容及び組織の確認 ○ 年間の活動計画の作成 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・第2学年ハイパーQ-U調査結果の分析と対策の検討 	
	第1回子ども理解支援ツール「ほっと」の実施 ※東神楽中学校全校生徒及び各小学校全校児童を対象に実施	
	教育相談・進路相談の実施① <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育相談アンケート調査結果 ○ 第2学年ハイパーQ-U調査結果 ○ いじめアンケート調査結果 ※上記3点の結果を生かした相談の実施 	
8月	第1回 「ほっと」の分析	第1回 「ほっと」の分析
	中1ギャップ問題未然防止学習会① <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ほっと」の活用について、小・中学校の合同研修 講師：上川教育局義務教育指導班指導主事 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほっと」を活用した効果的な小学校と中学校の引継ぎについての研修 ・「ほっと」の分析と教育相談への効果的な活用方法についての研修 	

9月	<p>教育相談・進路相談の実施②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ほっと」の調査結果 ※「ほっと」の結果を生かした相談の実施 <p>教育相談の結果の交流</p>	<p>教育相談の実施①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ほっと」の調査結果 ※「ほっと」の結果を生かした相談の実施 <p>教育相談の結果の交流</p>
<p>スポーツを通じた小学生と中学生の交流（バスケットボール） 参観日における小・中学校の交流</p>		
10月	<p>生徒指導交流会の実施</p>	<p>生徒指導交流会の実施</p> <p>小学校学習交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小規模校と大規模校の学習等の交流
11月	<p>教育相談・進路相談の実施③</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育相談、進路相談、三者懇談の結果 ※結果の分析と生徒指導事例研修の実施 	<p>教育相談の実施②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活アンケートの結果 ※「生活アンケート」の結果を生かした相談の実施
12月	<p style="text-align: center;">第2回子ども理解支援ツール「ほっと」の実施</p> <p style="text-align: center;">※各学校でデータを分析、交流するための準備</p> <p style="text-align: center;">中1ギャップ問題未然防止事業運営委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本町、本校の取組事例の発表 ○ 「ほっと」を活用した取組についての事例報告 ○ 小、中学校の引継ぎ事例についての紹介 ○ 小学校の取組事例の発表 	
1月	<p style="text-align: center;">中1ギャップ問題未然防止学習会②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 講演（演習含）「スクールカウンセリングについて、子どもへの対応」 講師：臨床心理士 太田慈春氏（こころsofa主宰・札幌市SC） 	
2月	<p style="text-align: center;">第2回 東神楽町中学校区の中1ギャップ問題検討委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度の各学校での活動成果の交流 ○ 小、中学校の引継ぎ情報交流について ○ 中学校説明会の実施内容と方法の検討 <p style="text-align: center;">東神楽中学校学校説明会（保護者） 小学校へ出向き中学校の説明会（6年生）</p>	
3月	<p style="text-align: center;">平成25年度の取組の反省</p>	

6 事業の成果

○ 小・中学校合同研修会の充実

各学校で実施した「ほっと」の分析結果を持ち寄り、効果的かつ具体的な児童生徒への指導方法についての研修を実施したことにより、「ほっと」の結果を活用した教育相談や学級活動等において、児童生徒の心に寄り添い、個や学級全体への指導の充実につなげることができた。

中学校の学校評価、生徒アンケートで「先生方は相談しやすい」と回答した生徒は、全校生徒の79%を超え、平成24年度と比較して10%上昇している。

○ 児童生徒が主体となった取組の継続

小・中学校それぞれで、学級活動や行事等において児童生徒が主体となった取組を充実させたことにより、9月に実施したスポーツを通して小・中学生が交流する場面において、中学生が活動の運営や小学生に対する指導を行ったり、小学生が中学生の指導の下、不明な点を積極的に質問したりするなど、自主的、積極的な活動場面が数多く見られた。

中学校の学校評価、生徒アンケートで「学校生活は楽しい」と回答した生徒は、全校生徒の91%を超え、平成24年度と比較して5%上昇している。また、中学校の保護者アンケートで「学校生活が楽しく、充実した学校生活を過ごしている」と回答した保護者は、全体の95%を超え、平成24年度と比較して8%上昇している。

○ 保護者や地域への積極的な情報提供

学校便りや中1ギャップ問題検討委員会の取組を周知するとともに、既存の組織の研修の中で、小・中学校の教員が情報交流を行ったり、小・中学校の参観日をそれぞれ公開して、小学校の保護者に中学校教員が生徒指導、学習指導、人間関係等に関わる内容について説明したりする活動を行ったことで、小学校の保護者に中1ギャップ問題に関する意識の高まりが見られた。

7 今後の課題

○ 東神楽町の小・中学校が一体となり、児童生徒が主体的に運営や準備に関わる取組を組織的・計画的に継続して行う必要がある。

○ 保護者や地域と連携し、「中1ギャップ解消」に取り組むことができるよう、本事業についての情報提供を積極的に行い、東神楽町PTA連合会、社会教育関係団体との連携を図りながら、学校と家庭、地域が一体となって児童生徒のコミュニケーション能力の向上について取り組めるようにする必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言 ◇◇◇

○ 「中1ギャップ解消」に向けては、子ども理解支援ツール「ほっと」を継続的に実施し、きめ細かく心の変化を見取り、指導の充実に生かすことが有効である。そのため、全町の教員を対象に研修を実施し、指導力の向上を図るとともに、小・中学校教員の交流を積極的に推進する必要がある。

○ 「中1ギャップ解消」に向けては、既存の組織である生徒指導連絡協議会や特別支援連絡協議会と相互の情報交流を推進したり、他の組織に情報提供したりするなど、関係機関と協力関係を構築する必要がある。

○ 「中1ギャップ解消」に向けては、生徒会と児童会が交流し、お互いの学校生活について交流する取組や、不安や悩み等について交流し合う場を設定するなど、児童生徒の主体的な取組を充実する必要がある。

枝幸町立枝幸南中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名	枝幸町立枝幸南中学校 (生徒数 24名)
連携小学校名	枝幸町立音標小学校 (児童数 11名)
	枝幸町立風烈布小学校 (児童数 9名)
	枝幸町立乙忠部小学校 (児童数 17名)
	枝幸町立山臼小学校 (児童数 14名)

本プランの特徴

- 小・中学校間で定期的な授業公開と討議を行い、課題の把握と共有化に努めています。
- 小・中学校間で段差のない「学習の心得」に取り組み始めました。
- 児童が中学校に来る機会、中学校教諭が小学校に行く機会を多くしようと心がけています。

1 中学校区の特徴

北オホーツク海沿岸約 20 km に及ぶ校区内に 4 つの小学校を擁する。保護者の職業は、漁業と酪農の第一次産業が大半を占め、生活は安定している。保護者の学校に対する期待は大きく、PTA 活動等の取組は熱心である。さらに、学校行事等にも協力的で、地域全体で子どもたちを育てる機運が高い。

2 中学校区の課題

生徒は、落ち着いた学校生活を送っており、行事等の取組にも創意工夫があり、まじめで意欲的である。校区内の小学校は、どの学校も小規模校であり、集団の構成人数が少ないことから、友だちを意識し、お互いの存在感を大切にしながら協力し合う姿が見られるが、競い合いや切磋琢磨しようとする意欲に課題が見られる。学習面では、まじめで落ち着いて取り組むことができるが、全体的に基礎学力の定着度が低く、家庭学習の習慣が不十分であるなどの課題が見られる。また、健康・安全面における予防意識を高める取組や望ましい生活習慣の意識化を図る取組が必要な生徒もいる。

3 中学校区の目標（小・中学校の重点目標）

- ・ 小中交流による児童生徒理解
- ・ 学力向上
- ・ 学習規律の定着
- ・ 小中の引継ぎの充実

4 中1ギャップ検討委員会の組織

所属	役職	所属	役職
枝幸町立枝幸南中学校	校長・教頭	枝幸町立風烈布小学校	教頭
枝幸町立枝幸南中学校	教務主任	枝幸町立風烈布小学校	南5校代表者教諭
枝幸町立枝幸南中学校	生徒指導主事	枝幸町立乙忠部小学校	教頭
枝幸町立枝幸南中学校	南5校代表者教諭	枝幸町立乙忠部小学校	南5校代表者教諭
枝幸町立音標小学校	教頭	枝幸町立山臼小学校	教頭
枝幸町立音標小学校	南5校代表者教諭	枝幸町立山臼小学校	南5校代表者教諭

5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	学校名 (拠点校)	学校名 (連携校)
	枝幸南中学校	音標小・風烈布小・乙忠部小・山臼小
4月	<p>第1回南5校代表者会議 (4月24日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成 枝幸南中学校校長・教頭 南5校代表者 ・目的 平成25年度事業の確認 ・内容 南5校の課題確認と中1ギャップ解消に向けた取組の説明及び協議を行い、年間計画を立てる。 	
5月	<p>春季授業交流 (5月7日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成 南5校全教職員。 ・目的 枝幸南中学校の授業を公開し、交流・協議を通して、それぞれの小学校、中学校の視点から課題を明らかにするとともに、今後の小・中学校連携の在り方について検討する場とする。 ・内容 (1) 中学校が授業公開し、小学校の教職員が全学年の授業を参観する。 (2) 次の視点でグループに分かれて協議を行う。 <ul style="list-style-type: none"> A 学習指導における各校の現状課題 (学習全般・各教科・学習規律) B 現状課題に対する改善策 (各校の取組、工夫改善案、小・中の連携、小・小の連携した取組) 	
6月 ～2月	<p>小中授業交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成 中学校教職員と各小学校 ・目的 枝幸南中学校に進学する児童の様子を知る。 ・内容 授業参観日等を活用して小学校の授業を公開し、中学校教職員が、児童の学校生活の様子や学習規律、集団適応能力の把握に努める。 	
9月 ～2月	<p>音楽科の出前授業・小学校外国語活動への指導助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成 中学校の音楽科と英語科の教諭及び各小学校の教諭 ・目的 枝幸南中学校に進学する児童の様子を知るとともに、中学校生活への興味・関心を高める。 ・内容 中学校音楽科教諭が10月に行われる小学校学芸会合唱曲練習の指導助言を行う (9月19日、9月26日)。 中学校英語科教諭が小学校外国語活動の時間の授業を参観し、指導法について助言する (2月12日)。 	

11月	<p>秋季授業交流（11月18日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成 南5校全教職員 ・目的 中学校区内の小学校が授業を公開し、小・中学校それぞれの立場から、校区内の児童の課題解決に向けた授業改善、今後の連携の在り方について協議する。 ・内容 （1）小学校1校が授業公開し、中学校、小学校の教職員が全学年の授業を参観する。 （2）5グループに分かれて児童生徒理解について交流を行い、南5校のこれまでの取組から明らかとなった成果と課題について確認する。 <p>「ほっと」の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象 南5校の全ての児童生徒全学年 ・目的 児童生徒の学校適応への支援を行うために各学年の実態を把握する。 ・内容 子ども理解支援ツール「ほっと」を活用し、社会的スキルのバランス状態を確認して、中1ギャップなどの未然防止に向けた取組の充実を図る。
12月 ～2月	<p>部活動体験入部・授業体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象 南5校の第6学年児童 ・目的 南中学校に進学する児童の様子を知るとともに、中学校生活への興味・関心を高める。 ・内容 12月から2月まで土曜日の部活動を公開参加とし、体験させる。 新入学説明会において中学校教諭が授業を行う。
2月	<p>第2回及び第3回南5校代表者会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成 枝幸南中学校校長・教頭 南5校代表者 ・目的 平成25年度事業の反省と次年度の取組内容の確認 ・内容 中1ギャップ解消に向けた取組の反省と次年度の方向性を考える。
3月	<p>中学校入学生の引継ぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象 小学校6学年担任と中学校教諭 ・目的 入学予定の児童に対する指導内容について、情報の共有を行う。 ・内容 引継ぎ用紙を活用して引継ぎを行う。 不登校傾向にある児童への対応や、いじめの未然防止の取組等について協議する。

6 事業の成果

- 今まで中学校区の南5校で取組を行っていたことに本事業が加わり、「中1ギャップ」問題の未然防止に向けた取組を明確に打ち出す機会となった。
- 生活アンケート、子ども理解支援ツール「ほっと」の実施により、学級適応感をはじめ、社会的スキルの定着状況や学習状況等を客観的にとらえることで、学校不適応の兆候の早期発見が可能になり、児童生徒に対する適切な支援の充実につながった。
- 子ども理解支援ツール「ほっと」の結果から、学力向上に向けた取組の課題との関連も明確となり、授業改善の手立てを考える一助となった。
- 早期発見、早期対応の大切さを再認識し、定期的な教育相談活動の回数が増えたことで、生徒の日常的な悩みなどを知り、生徒理解の一層の充実を図ることができた。
- 小・中学校の教職員が、児童生徒に対する指導の在り方や、協力して連携を図って協力することの大切さを改めて確認することができた。

7 今後の課題

- 「中1ギャップ」問題の未然防止に向けた取組を計画的に教育課程に位置付け、小・中学校が連携して、意図的に行う必要がある。
- 子ども理解支援ツール「ほっと」の結果を活用した、コミュニケーション能力を高める取組を、年間を通して、計画的に継続して行う必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言 ◇◇◇

- 子ども理解支援ツール「ほっと」は、日常、教師が感覚的に感じていることがデータで明確に表されるとともに、潜在する領域の様子も把握することができるため、生徒指導の改善・充実や未然防止の手立てを具体的に考えることに有効である。
- 学習規律については、小学校と中学校の共通化を図ることで、入学当初の不安感を軽減するとともに、学力向上にも大きな効果が期待できる。学習規律の共通化を図るためには、各学校の課題を明確にし、小・中合同研修会を充実させ、日常的な授業交流・研究協議を行うことが大切である。
- 部活動体験や出前授業など、中学校の教育活動を事前に体験する活動を通して、中学校生活のイメージをもたせることは、児童の不安感の解消を促し「中1ギャップ」の解消につながる。また、事前の体験活動は、中学校にとっても児童の様子を把握でき、早期に指導の手立てを構築できる。
- 本中学校区は、これまでも計画的に連携を図ってきたが、今年度の取組の目的の一つに「中1ギャップの解消」を設定したことで、小・中学校が一体となって取り組むことの大切さを再認識することにつながる。

網走市立第二中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名	網走市立第二中学校（生徒数204名）
連携小学校名	網走市立中央小学校（児童数258名）
	網走市立西小学校（児童数182名）

本プランの特徴

- よりよい人間関係を築くために、ピア・サポートを学習しています。
- 児童生徒の交流活動を工夫することにより、コミュニケーション能力の育成を図っています。
- 生活アンケートを工夫し、教育相談の充実を図っています。

1 中学校区の特徴

本中学校は、網走市の市街地に位置しており、現在、学級数は9学級（特別支援学級3を含む）、生徒数204名で、今後5～6年は240人台に増加する見込みである。保護者は教育熱心で、学校に対する関心は高い。

本中学校区には、西小学校と中央小学校の2校があり、中学校入学時には、約半数が新たな友人となることから、第1学年における人間関係づくりの取組を意図的、計画的に進めていくことが求められる。

2 中学校区の課題

生徒は素直でやさしく、互いに思いやりをもって生活している。一方で、自尊感情の低さや無気力、人間関係づくりを不得意とする児童生徒の増加が課題となっている。

また、中学校第1学年においては、小学校から中学校への大きな環境の変化に適応できないという小・中学校間の接続の問題がある。

そのため、児童生徒の内面へのきめ細かな対応や、児童生徒の人間関係づくりにかかわる能力の育成が喫緊の課題となっている。

3 中学校区の目標（小・中学校の重点目標）

昨年度の取組で不十分であった内容を中心に、その充実を図る。具体的には、学習規律・生活規律について共通した指導事項を設定し、指導を行うこと、児童生徒の学習状況や生活状況等について引継ぎの工夫改善を行うこと、昨年度実施した生活アンケート「Q-U」に関わる小中合同研修会の内容を充実させることである。

4 中1ギャップ検討委員会の組織

所属	役職	所属	役職
網走市立第二中学校	教頭	網走市立中央小学校	教頭
網走市立第二中学校	教務	網走市立中央小学校	教諭
網走市立第二中学校	生徒指導	網走市立西小学校	教頭
		網走市立西小学校	6年担任

5 中1ギャップ解消プランの実際

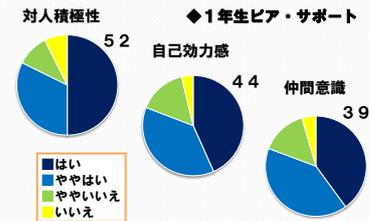
時 期	第二中学校	中央小学校、西小学校
5月	ピア・サポート授業	
6月	<p>第1回いじめアンケートの実施 【道教委の調査に基づいた実施】</p> <p>第1回 生活アンケート「Q-U」の実施</p> <p>第1回アンケート分析に基づいた「Q-U」校内生徒指導研修会</p>	
7月	<p>第1回 中1ギャップ問題未然防止事業 スタッフ会議</p> <p>昨年度の調査研究に基づき、今年度の事業についての確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピア・サポート授業 ・生活アンケート「Q-U」「ほっと」を活用した児童生徒理解 ・新入生交流会 ・小中学校の引継ぎ事項の検討 ・小中学校間の学習規律、生活規律の共通指導事項の確認 	
9月	<p>ピア・サポート校内研修会【二中・中央小・西小合同研修会】</p> <p>函館大谷短期大学 中野武房 客員教授による研修会</p> <p>「予防的・開発的教育相談」</p> <p>～ピア・サポートプログラムから～</p> <p>ピア・サポート授業</p> <p>『Q-U』【学級診断尺度調査】に係わる校内研修会</p> <p>【二中・中央小・西小合同研修会】</p> <p>釧路工業高等専門学校 保健体育科 三島利紀 教授による研修会</p>	
10月	<p>第2回 生活アンケート「Q-U」の実施</p> <p>子ども理解支援ツール「ほっと」の実施</p> <p>第1回アンケート分析に基づいた「Q-U」校内生徒指導研修会</p>	

11月	<p>第2回いじめアンケートの実施 【道教委の調査に基づいた実施】</p>	<p>第二中学校第1学年と中央小学校第6学年との交流</p> <p>拠点校、連携校の公開研究会等に他校の教員が授業参観に出向き交流を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月 5日 第二中学校 実践学習交流会 ・12月 2日 西小学校 公開研究会 ・12月18日 中央小学校 公開研究会
12月		<p>第二中学校教諭が西小学校第6学年の授業に出向き、ゲストティーチャーとして質問に答える</p>
1月		<p>第1回 中1ギャップ問題未然防止事業 スタッフ会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生交流会に係わる、日程・内容について打合せ ・小中学校の引継ぎ事項の検討 ・小中学校間の学習規律、生活規律の共通指導事項の確認 <ul style="list-style-type: none"> ○ 他人の話を最後まで聞く。 ○ チャイムで着席し、学習準備をする。 ○ 忘れ物をしない。 <p>以上3点を各校の共通指導項目とした。</p>
2月		<p>新入生交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月27日(木) 13:30～14:30 ・中央小学校・50名、西小学校・27名、第二中学校・65名 ・学校紹介【スライド、クイズ形式】 ・レクリエーション、ゲーム ・新入生からの質問 など
3月		<p>小中学校間の引継ぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引継ぎシートを作成し、各項目について特記事項を記載した上で引継ぎを実施。 【指導要録で確認できるものは記載しない】

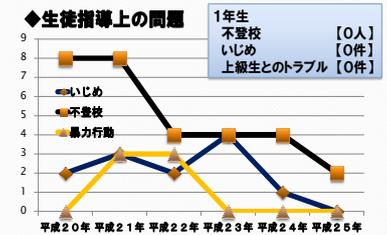
6 事業の成果

- ピア・サポートの実践
 - ・小中学校合同のピア・サポート研修会を実施することで、小学校では児童の人間関係を築く能力が向上し、中学校では対人積極性や自己有用感が向上するという成果が現れている。また、いじめ・不登校なども減少してきている。
- 「ほっと」「Q-U」の活用による生徒理解
 - ・「ほっと」「Q-U」の結果を分析し、生徒指導研修会で全教員が児童生徒理解についての共通認識をもつことにより、教育相談等において生徒一人一人に対しきめ細かく対応することができた。
- 新入生交流会の実施
 - ・交流活動を行うことにより、第6学年児童からは「他校生と知り合うことができよかった」「交流会のおかげで、不安より楽しみが増えた」等の感想が出され、児童の中学校進学に対する期待感を高めることができた。また、中学生からは「先輩になるのだという実感がわいた」等の感想が出され、上級学年としての意識を高めることができた。
- 小・中学校相互の授業参観
 - ・小学校、中学校それぞれの教員が相互に授業を参観することにより、異校種の学習内容や児童生徒の実態を把握することができ、学びの連続性を踏まえた授業づくりの意識が高まった。

ピア・サポートの実践

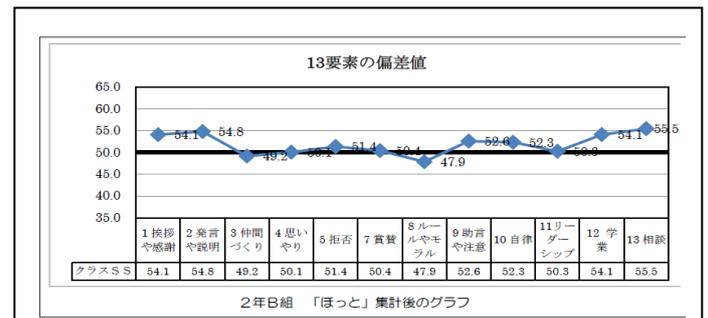


ピア・サポートの実践



7 今後の課題

- 学習規律、生活規律の指導に関する取組
 - ・拠点校と連携校の3校において、学習規律や生活規律の定着に向け、「話の聞き方」「学習準備」「忘れ物への対応」の3つの項目を共通して設定した。これらの項目を設定することによって、児童生徒に即効的な変容が見られるわけではないが、全教員の児童生徒をほめたり励ましたりする視点が共通になり、児童生徒に学校生活に対する安心感をもたせることができた。今後も共通して取り組む項目を徐々に増やすことにより、学習面も含めて校種間の円滑な接続を図り、児童の進学時の不安の解消につなげる必要がある。
- 児童生徒の学習状況や生活状況等の引継ぎ
 - ・引継ぎシートへの記述内容がより具体的ものになるよう改善を図るとともに、「Q-U」「ほっと」のデータの分析及び活用について、教員の理解を深める必要がある。
- ピア・サポートの実践
 - ・ピア・サポートの実践に関する特別委員会等を設置し、より組織的に取り組む必要がある。



◆◆◆ 中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言 ◆◆◆

- ピア・サポートを計画的に実践することは、発達の段階に応じた人間関係を築く力やコミュニケーション能力を育成する上で大変有効である。
- 小学生と中学生の交流活動及び小・中学校の教員同士の交流により、小学校の児童に中学校での学習・生活に見通しをもたせることができ、中1ギャップの解消に大変有効である。
- 「ほっと」「Q-U」等の生活アンケート及び引継ぎシートを活用することにより、児童生徒の実態を客観的にとらえて学校全体としての取組を進めることができ、大変有効である。

陸別町立陸別中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名 陸別町立陸別中学校（生徒数53名）
 連携小学校名 陸別町立陸別小学校（児童数92名）

本プランの特徴

- 小・中合同研修会を実施して、「中1ギャップ解消」に向けた研究・研修を行い、9年間を見通した滑らかな接続を図っています。
- 拠点校・連携校ともに学級集団アセスメント「Q-U」、子ども理解支援ツール「ほっと」を活用して児童生徒理解を深め、結果分析に基づいた改善策を実践しています。

1 中学校区の特徴

日本一寒い町と言われる「陸別町」は、北国独特の文化があり「しばれフェスティバル」などで、日本全国に我が町を広くPRしている。

町の約85%は、山林に覆われ、道内有数の森林資源地となっている。また、肥沃な農業地帯として、寒冷地農法による酪農や畑作が行われている。

2 中学校区の課題

全ての児童生徒が、小学校からの持ち上がりで、人間関係の固定化が見られる。また、新しいことに挑戦する意欲的な姿勢に欠ける面も若干見られる。しかし、とても素直で規範意識が高く、模範的な児童生徒が多い。

学習面では、全国学力・学習状況調査やCRT検査の結果などから様々な問題が浮き彫りになってきているが、個に応じた指導を充実させる取組により、改善の方向に向かっている。

3 中学校区の目標（小・中学校の重点目標）

- (1) 人間関係づくりの能力の育成を図る教育課程の円滑な接続
 - ア 合同研修会の実施
 - イ 出前授業や特別講師による授業支援の実施
 - ウ 各種アンケートの実施
- (2) 学習指導・生活指導の円滑な接続
 - ア 学習規律・生活規律に関する一貫した取組
 - イ 家庭学習の内容・方法についての連携
- (3) 成果の普及
 - ア 公開研究会の実施
 - イ 研究紀要の作成
 - ウ 町民への情報発信（役場庁舎での実践記録展示）

4 中1ギャップ検討委員会の組織

所 属	役 職	所 属	役 職
陸別町立陸別中学校	校長（会長）	陸別町立陸別中学校	教諭
陸別町立陸別小学校	校長（副会長）	陸別町立陸別小学校	教諭（厚生安全）
陸別町立陸別中学校	教頭（事務局長）	陸別町立陸別中学校	教諭（文化）
陸別町立陸別小学校	教頭（監査）	陸別町立陸別小学校	教諭（文化）
陸別町立陸別中学校	教諭（研修）	陸別町立陸別中学校	教諭
陸別町立陸別小学校	教諭（研修）	陸別町立陸別中学校	教諭（研修部）
		陸別町教育委員会	主任主査

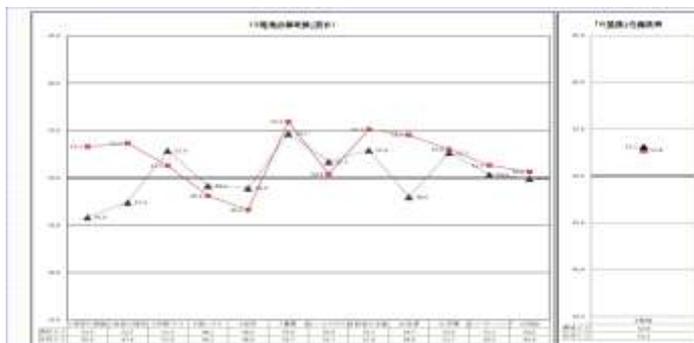
5 中1ギャップ解消プランの実際

	陸別町立陸別中学校	陸別町立陸別小学校
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校との新1年生に関わる引継ぎ ・交友関係、生活状況、学習状況等の把握と入学後の配慮事項確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校への新1年生の情報提供 ・担任による情報整理
4月	中1ギャップ検討委員会体制の整備（第1回小中合同研修会の活動計画作成）	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研修 ・中1ギャップ解消に向けたプランの検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研修 ・中1ギャップ解消に向けたプランの検討
	小中連携 学習規律・生活規律に関する一貫した取組	
	小中連携 出前授業（外国語を中心に中学校教員の小学校授業への参加）	
5月	小中連携 出前授業（外国語を中心に中学校教員の小学校授業への参加）	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研修 ・評価等に関する研修会の開催 ○ 生徒の行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の行動観察
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成25年度第1回「中1ギャップ」問題未然防止運営協議参加 (講師～富家直明氏・北海道医療大学教授) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校生活に関わるアンケート①
	小中連携 出前授業（外国語を中心に中学校教員の小学校授業への参加）	
	第1回いじめアンケートの実施 (道教委調査に基づいて実施)	第1回いじめアンケートの実施 (道教委調査に基づいて実施)
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活アンケート「Q-U」の実施 ○ 教育相談週間（全学年） 	
7月	小中連携 出前授業（外国語を中心に中学校教員の小学校授業への参加）	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒交流研修 ・各学年から生徒の状況説明と指導の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒指導交流会 ・学校生活に関わるアンケート①分析
8月	第2回いじめアンケートの実施 (道教委調査に基づいて実施)	第2回いじめアンケートの実施 (道教委調査に基づいて実施)
	小中連携 出前授業（外国語を中心に中学校教員の小学校授業への参加）	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級経営交流会 ・経営の中間反省と課題・方策の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級経営交流会 ・経営の中間反省と課題・方策の改善
	小中連携 家庭学習の内容・方法についての連携	
	第1回「中1ギャップ」問題未然防止 集団カウンセリング研修会 参加	

9月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>中1ギャップ検討委員会（第2回小中合同研修会の中間反省と今後の計画確認）</p> </div>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>小中連携 出前授業（外国語を中心に中学校教員の小学校授業への参加）</p> </div>	
10月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>○ 第6学年 授業研究</p> </div>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>小中連携 出前授業（外国語を中心に中学校教員の小学校授業への参加）</p> </div>	
	○ 生徒の行動観察	○ 児童の行動観察
11月	○ 生活アンケート「Q-U」の実施 ○ 教育相談週間（全学年） ※3年生は進路相談と兼ねて	○ 学校生活に関わるアンケート② ○ 生徒指導交流会 ・学校生活に関わるアンケート②分析
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>陸別町教育研究大会 講演会 「中1ギャップ問題への対応」 講師 富家直明氏（北海道医療大学教授） ※中学校公開授業・小中連携授業の公開と授業反省会の実施</p> </div>	
	○ 校内研修（連携を核とした） ・「特別支援教育の理解を深める研修」 講師～帯広養護学校 大場史郎氏 （特別支援教育コーディネーター）	○ 児童の行動観察
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>第3回いじめアンケートの実施 （道教委調査に基づいて実施）</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>第3回いじめアンケートの実施 （道教委調査に基づいて実施）</p> </div>
12月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>小中連携 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施（全学級・全生徒）</p> </div>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>第2回「中1ギャップ」問題未然防止集団カウンセリング研修会 参加 ※構成的グループエンカウンターを中心に実施</p> </div>	
1月	○ 学級経営交流（「ほっと」の分析から） ○ 平成25年度第2回「中1ギャップ」問題未然防止運営協議参加	○ 校内研修（ソーシャルスキル指導） ○ 学級経営交流（「ほっと」の分析から）
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>小中連携 出前授業（外国語を中心に中学校教員の小学校授業への参加）</p> </div>	
2月～	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>小中連携 新入生説明会～保護者・児童に分かれ「中1ギャップ」の問題も提起</p> </div>	
3月	○ 校内研修 ・中1ギャップ拠点校としての反省と次年度の方向性の検討・確認	○ 学校生活に関わるアンケート③ ○ 生徒指導交流会 ・学校生活に関わるアンケート③分析
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>中1ギャップ検討委員会（第3回小中合同研修会の年度反省と次年度の方向性検討）</p> </div>	

6 事業の成果

- 小中連携による学級経営及び生徒指導の充実
 - ・年3回の小中合同研修会
 - ・年8回の出前授業の実施
 - ・外部講師を招聘した教育研究大会の実施
- 生徒指導に基づく教育相談等の充実
 - ・子ども理解支援ツール「ほっと」の活用
(小・中合同で年2回実施)
 - ・学級集団アセスメント「Q-U」の活用
(中学校で年2回実施)
 - ・学校生活に関わるアンケートの実施
(小学校で年3回実施)
- 小・中学校の円滑な接続
 - ・児童生徒が主体となって行う、集会活動などのコミュニケーション活動
 - ・出前授業による教員間、児童生徒間の人間関係づくり
 - ・啓発資料を活用した、親子間のコミュニケーションの活性化



〔子ども理解支援ツール「ほっと」 中学1年生の結果〕

7 今後の課題

- 9年間を見通した教育課程を踏まえた、効果的な「出前授業」の実施
- 構成的グループ・エンカウンターなどの系統的・計画的な教育課程への位置付け
- 保護者や地域、関係機関等との連携強化
- 各種アンケート等の結果分析・活用方法に係る研修会の充実

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言 ◇◇◇

- 児童生徒理解を図るため、子ども理解支援ツール「ほっと」や「アセス」「Q-U」などを活用して、客観的なデータを集積し、それらを分析・検証する能力を教職員が身に付けるために研修を充実させることが効果的である。
- 「中1ギャップ解消」に向けては、小・中学校の教職員の共通理解のもと組織的に推進することが大切である。生徒指導連絡協議会・就学指導委員会などの既存の組織との連携を図り、相互の情報交流等を行う推進体制を整えることが効果的である。
- 児童が中学校の授業を体験することで、学習への不安を取り除くことができるとともに、現在の学習が中学校でどのように結び付いているか、見通しをもった学習に取り組むことができるため、中学校教員が小学校の授業へ参加する出前授業が効果的である。

別海町立別海中央中学校区における中1ギャップ解消プラン

拠点中学校名 別海町立別海中央中学校(生徒数198名)

連携小学校名 別海町立別海中央小学校(児童数397名)

本プランの特徴

- 町内の各種会議において異校種間の引継ぎの具体的な取組として、子ども理解支援ツール「ほっと」の結果と考察を活用した事例について説明しています。
- 学びの基盤となる学習規律の徹底や子ども理解支援ツール「ほっと」の活用を通して、これまでの小・中・高等学校の連携の在り方を見直しています。
- 中学校の数学科担当教員及び英語科教員がチーム・ティーチングで小学校の算数及び外国語活動の授業を行うなど、学力の向上を図るとともに、中学校におけるスムーズな学びを保障しています。

1 中学校区の特徴

本中学校区は、別海町の市街地に位置しており、高等学校1校と保育園が1園、私立幼稚園が2園ある。その3園から別海中央小学校に入学し、ほとんどの子どもが別海中央中学校、別海高等学校と進学していく。児童生徒は素直でまじめで、学校行事などには一生懸命取り組む姿勢がみられるが、学校生活においては教師の指示を待つなど、受け身の姿勢も目立つ。

2 中学校区の課題

別海中央中学校には別海中央小学校の全児童が入学するため、学級や学年において新たに人間関係を構築しなければならない場面が少なく、人間関係づくりに関する負担は少ない。しかし、中学校入学後は教科担任制による授業形態の変化や部活動における上下人間関係等が原因となり、学校生活に不安を抱く生徒が増え、学校生活に消極的になる生徒や不登校傾向の生徒が多くなっている。

3 中学校区の目標（小・中学校の重点目標）

児童生徒の学校に適應するための課題を様々な方法により多面的に捉え直し、日常の授業改善や協同的な学習の実施、ピア・サポート等によるコミュニケーションスキルの育成などを通じて、知・徳・体を総合的にはぐくむ。

- ・ 子ども理解支援ツール「ほっと」の分析と引継ぎにおける活用
- ・ 各学校における学習規律の共有と徹底
- ・ 中学校教員のチーム・ティーチングによるきめ細かな学習指導と児童の実態の把握

4 中1ギャップ検討委員会の組織

所 属	役 職	所 属	役 職
別海町立別海中央中学校	教頭	別海町立別海中央小学校	教諭
別海町立別海中央中学校	教諭	別海町立別海中央小学校	教諭
別海町立別海中央中学校	教諭	別海町立別海中央小学校	養護教諭
別海町立別海中央中学校	養護教諭	別海町教育委員会	指導主幹
別海町立別海中央小学校	教頭	別海町教育委員会	主事

5 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	別海町立別海中央小学校	別海町立別海中央中学校
6 月	教育委員会職員及び拠点校・連携校の管理職による事業推進体制の打合せ	
	○ 校内研修 ・「中1ギャップ」解消に向けた具体的なプランの検討	○ 校内研修 ・「中1ギャップ」解消に向けた授業改善につながる協議
	「ほっと」を活用した生活アンケートの実施	
	<ul style="list-style-type: none"> * 数学科教員が行う第4～6学年の算数の授業におけるチーム・ティーチング * 英語科教員が行う外国語活動の授業におけるチーム・ティーチング 	<ul style="list-style-type: none"> * 把握した児童の実態を中学校で共有するための報告
7 月	第1回中1ギャップ検討委員連絡協議会	
	○ 自己研修 ・長期休業中に自校でのアンケート結果等をもとに2学期以降の対応を考える。	○ 教育相談の実施 ○ 自己研修 ・長期休業中に自校でのアンケート結果等をもとに2学期以降の教科指導を中心に指導方法を考える。
	<ul style="list-style-type: none"> * 数学科教員が行う第4～6学年の算数の授業におけるチーム・ティーチング * 英語科教員が行う外国語活動の授業におけるチーム・ティーチング 	<ul style="list-style-type: none"> * 把握した児童の実態を中学校で共有するための報告
8 月	○ 「やればできる学習会」の実施	○ いじめ・ネットトラブル根絶！メッセージコンクールに向けた取組
9 月	<ul style="list-style-type: none"> * 数学科教員が行う第4～6学年の算数の授業におけるチーム・ティーチング * 英語科教員が行う外国語活動の授業におけるチーム・ティーチング 	<ul style="list-style-type: none"> * 把握した児童の実態を中学校で共有するための報告 * チーム・ティーチングに関する指導の改善・充実
10 月	「ほっと」を活用した生活アンケートの実施	
	○ 校内研修 ・授業構想、学習指導案の作成（第6学年） ○ どさんこ☆子ども根室地区会議の参加	○ 校内研修 ・授業構想、学習指導案の作成（第1学年） ○ 公開研究会視察

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全校集会でどさんこ☆子ども根室地区会議の報告（いじめ撲滅宣言） ○ 校内研修 <ul style="list-style-type: none"> ・授業構想、学習指導案の作成（第6学年） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研修 <ul style="list-style-type: none"> ・授業構想、学習指導案の作成（第1学年）
	「ほっと」を活用した生活アンケートの実施	
11月	<u>根室管内小中学校生徒指導研究大会</u> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の取組状況や児童生徒の実態把握調査に関する情報交換を行う。 ・国立釧路工業高等専門学校 三島利紀 教授による講演「寄り添う教師になるために」を行う。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主公開研究会 <ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して児童の言語活動について協議する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活アンケート等を活用した教育相談の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート等の客観的なデータに基づいた相談を行う。
12月	<ul style="list-style-type: none"> *数学科教員が行う第4～6学年の算数の授業におけるチーム・ティーチング *英語科教員が行う外国語活動の授業におけるチーム・ティーチング 	<ul style="list-style-type: none"> *把握した児童の実態を中学校で共有するための報告
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運営協議会の準備 <ul style="list-style-type: none"> ・発表資料の作成と検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運営協議会の準備 <ul style="list-style-type: none"> ・発表資料の作成と検討
	<ul style="list-style-type: none"> *数学科教員が行う第4～6学年の算数の授業におけるチーム・ティーチング *英語科教員が行う外国語活動の授業におけるチーム・ティーチング 	<ul style="list-style-type: none"> *把握した児童の実態を中学校で共有するための報告 *チーム・ティーチングに関する指導の改善・充実
	<u>子ども理解支援ツール「ほっと」研修会</u> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道医療大学 富家直明 教授による講演「児童生徒の本当のメッセージを教員同士で受け止め話し合うために」を行う。 ・町内で実施した「ほっと」の結果分析をもとに、活用について実践方法を学ぶ。 	
2月	<u>一日体験入学</u> <ul style="list-style-type: none"> ・第1学年の授業を参観する。 ・中学校生徒会が小学校第6学年児童に対し、中学校生活について説明する。 ・学習や生活のきまりなど担当者が保護者に説明する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> *数学科教員が行う第4～6学年の算数の授業におけるチーム・ティーチング *英語科教員が行う外国語活動の授業におけるチーム・ティーチング 	<ul style="list-style-type: none"> *把握した児童の実態を中学校で共有するための報告 *チーム・ティーチングに関する指導の改善・充実

	小・中学校の引継ぎ（引継ぎシート及び「ほっと」データの活用）
3月	第2回中1ギャップ検討委員連絡協議会 ・各校の今年度の取組を振り返り、次年度の計画について協議する。

6 事業の成果

- 子ども理解支援ツール「ほっと」等のアンケートを継続して実施することで、個人と集団のコミュニケーション能力や日常生活への満足度などを客観的に把握することができ、効果的な引継ぎを行うことができた。また、「ほっと」を複数回実施することにより、指導の効果を客観的に捉えることができ、指導内容の見直しや指導方法の改善等に生かすことができた。
- 小・中・高等学校の教員による、学びの連続性についての共通理解が深まり、各学校において発達段階に応じた「学習規律」の徹底が進んだ。このことにより、校種間や学年間における学習規律の隔たりがなくなり、学年始めから授業に集中できるようになった。
- 小学校に数学科担当教員及び英語科担当教員を派遣することで、中学校教員による児童のつまずきや関心・意欲等の実態を把握することができた。このことにより、中学校入学後も継続したサポートが可能になり、生徒が安心して学習できる環境づくりにつながられた。

7 今後の課題

- 児童生徒の理解をより深めるために、「ほっと」等のアンケートの実施時期や回数の検討とアンケートの分析の方法や活用について理解を深める必要がある。
- 9年間の継続した学びを保障するために、学習指導・生徒指導における小学校と中学校の共通の課題を明確にし、それぞれの教員が発達の段階に応じた指導の工夫や改善をしていく必要がある。
- 幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校との連携をより一層深め、小学校での算数と外国語活動のティーム・ティーチング等の指導の充実を図る必要がある。

◇◇◇ 中1ギャップを解消するための本中学校区からの提言 ◇◇◇

○アンケート等の分析結果を活用した引継ぎ

校種間や学年間の引継ぎについて、人間関係や児童生徒の内面について学級担任の印象ではなく、子ども理解支援ツール「ほっと」等のアンケートを分析して具体的な数値を示すことは効果的で、客観的なものとなる。また、小学校から共通のアンケートを継続して実施することで児童生徒の変容が明確になり、生徒指導上の重要な指標として有効である。

○連続した学びの基礎となる学習規律の共有と徹底

小学校から高等学校へと続く12年間の連続した学びを保障するためには、各学校において校種間の学習規律を共有し、発達段階に応じた学習規律を設定することが大切である。この学習規律の共有を徹底することにより、児童生徒が安心して学習できる環境づくりに有効である。

○数学科担当教員及び英語科担当教員による算数・外国語活動の授業サポートの効果

専科の中学校教員による児童の発達段階を踏まえたきめ細かな学習指導は、基礎基本の確実な定着と中学校の学習に対する不安を和らげることにつながる。また、授業を通じて児童の習熟度の程度の把握は、中学校入学後の指導に有効である。